



新しい生命の誕生に日々感動 お産大好きな新スタッフ紹介

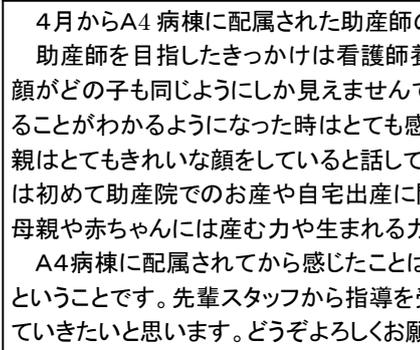


鶴田聡美助産師

はじめまして。助産師の鶴田聡美です。3月から済生会新潟第二病院 A4 病棟で働かせていただいています。「赤ちゃんにやさしい病院」で仕事ができることを嬉しく思っています。

以前は、日本大学医学部附属練馬光が丘病院で助産師として働いていました。まだまだ済生会病院での勤務に慣れず、挙動不審な動きをしていたらすみません。そんな私を見かけたら、いつでも親しく声をかけてください。でも、新しい生命の誕生に立ち会う感動はやっぱり素晴らしくて、この仕事を選んで良かったなって、改めて実感する毎日です。

新潟(越後)が舞台のNHKの大河ドラマ「天地人」の前作「篤姫」のふるさと、鹿児島県出身で、新潟で暮らすのは初めてです。引越してきてまだ2ヶ月弱で新潟県のことを何も知りません。休日は色々なところに出かけるのが好きなので、機会がありましたらおすすめの観光スポット、おいしい食べ物のあるお店などを教えてください。よろしくお願いします。

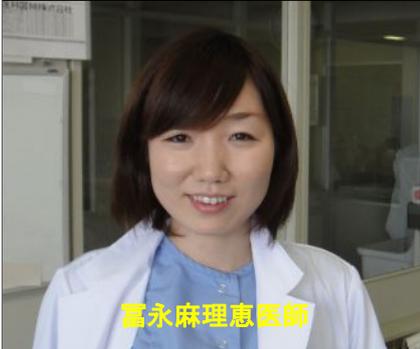


大塚和美助産師

4月からA4病棟に配属された助産師の大塚和美といいます。出身は新潟市西区です。

助産師を目指したきっかけは看護師養成学校の母性実習です。初めのうちは赤ちゃんの顔がどの子も同じようにしか見えませんでした。関わっていくうちにそれぞれ違う顔をしていることがわかるようになった時はとても感動しました。また、母性担当教員が、産んだ後の母親はとてもきれいな顔をしていると話していたことが印象に残っています。助産師養成学校では初めて助産院でのお産や自宅出産に関わり、本来お産は自然なもので、生活の中にあり、母親や赤ちゃんには産む力や生まれる力があることを感じさせられました。

A4病棟に配属されてから感じたことは、スタッフが元気で病棟内の雰囲気がとても明るいということです。先輩スタッフから指導を受けながら、A4病棟の真の一員となれるよう頑張っていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。



富永麻理恵医師

はじめまして、富永麻理恵といいます。春から済生会第二病院産婦人科で勤務しています。平成21年に新潟大学医学部を卒業した後、新潟大学医歯学総合病院で研修しました。

出身は新潟県新潟市東区で、これまで新潟市以外に住んだことがありません。2年前に結婚し、現在は夫と二人暮らしです。趣味は料理と旅行と美味しいものを食べる、ジム通いです。しかし最近は何もなかなか出来ていません。

済生会第二病院に赴任してまだ日は浅いですが、先生方や優しい看護師さんたちに助けられ、日々勉強することばかりです。当院のようなお産件数の多い病院で勤務するのは初めてです。忙しくはありますが、毎日新たな生命が誕生する瞬間に立ち会うことができ、患者さんたちの笑顔を見ることが出来て非常に嬉しいです。まだ慣れない事も多いですが、より良い医療を提供していけるよう努力したいと思います。これからよろしくお願いします。

? 麻理恵ちゃんクイズ?

- Q1. 麻理恵が生まれた時の体重は?
A. 2345g B. 3145g C. 3945g
- Q2. ご主人(顕太郎氏)を何と呼んでいる?
A. 顕ちゃん B. 顕太郎 C. 顕太郎さん
- Q3. ご主人にプロポーズされた場所はどこ?
A. ロンドン橋 B. 万代橋 C. 二重橋
- Q4. 前任の高橋麻紀子医師とどっちが年上?
A. 高橋麻紀子 B. 同級 C. 富永麻理恵
- Q5. 高校で次の誰の長男と同じクラスだった?
A. 湯澤秀夫 B. 吉谷徳夫 C. 長谷川功
- Q6. 好きな食べ物は?
A. 和食 B. 中華料理 C. タイ料理
- Q7. 愛車の車種は?
A. アウディ B. コルト C. プリウス
- Q8. 兄弟の構成は?
A. 弟1人 B. 姉1人 C. 兄1人+妹1人

《臍帯抄》▼東日本大震災では、すでに15000名以上の命を救っている自衛隊の重要性が再認識されています。自らが被災者である隊員も「自分のことは二の次」と任務に邁進。避難所では被災者に暖かい食事とお風呂を提供しながら自らはテントで缶詰、その缶詰さえ子どもにも与えていました。普段の厳しい訓練により、瓦礫の山、泥水などの悪条件をもちしな力強さは、本当に頼もしい限りです。▼一方、母乳も今回の災害を通じて重要性が再認識されたものの1つでしょう。哺乳瓶の消毒や清潔な水の確保の心配が不要です。母乳中の免疫物質が赤ちゃんを下痢や呼吸器感染症などから守ります。何と言っても生きていくことの喜びを母子ともに感じることができます。▼当科の坂井加代子助産師は、宮城県石巻市に支援に行ってきました。避難所で生後2ヶ月の赤ちゃんがミルクを与えられていましたが、怒っていました。坂井助産師がみると、新生児用の乳首が使われており、乳首の穴を大きくしてあげたら、喜んで飲むようになりました。併せて哺乳瓶の消毒も指導しました。当院では、被災地への職員の派遣や、福島県などの被災者の出産の支援などを通じて、微力ながら復興のお手伝いをしたいと考えています。



当院派遣隊撮影

(答) Q1=C, Q2=B, Q3=A, Q4=A, Q5=C, Q6=C, Q7=B, Q8=A